



「自転車のまち」、だから安全対策を大きく推進させました！

2011年12月の一般質問にて、市立小学校全校で「こども自転車運転免許制度」の導入を提案、結果2013年度から4年生を対象に政令市で初となる「こども自転車運転免許制度」の全校実施を実現。

また、2013年9月議会では、事故発生率が最も高い中高生に対し、スケアード・ストレイト技法を用いた安全教育の必要性を主張。3年間で必ず一度は市立中高生全員がスケアード・ストレイト技法を受けられるように市に提案したところ、2014年度より21校での実施が決まりました。今後3年間で市内中高生の全員が自転車の安全教育を受けることができるようになりました。

車いす使用者の駐車スペースをもっと使いやすく！

2014年度予算より、市内公共施設の車いす使用者の駐車スペースを青色塗装するための予算が確保されました。

これは私が2013年6月議会の質問で、車いす使用者の駐車スペースの利便性向上の観点から青色塗装を提案したことによるものです。



現在、市内660カ所の公共施設では、325台分の車いす使用者の駐車スペースがありますが、利用頻度の高い区役所、公民館、コミュニティ施設等から順次整備が行われます。ただ、車いす使用者の駐車スペースは確保されているものの、その設置基準を満たしていない箇所もあり、早急な改善に取り組みなければなりません。

ノーマライゼーション社会を掲げるさいたま市において、今回は小さな一歩かもしれませんが、不正利用が後を絶たない現状を思えば、大きな一歩であると確信しています。

スケアード・ストレイト教育技法とは

スケアード(scared)とは、おびえる・びっくりする等の意味で、スタントマンによるリアルな交通事故再現を通して、交通安全意識の向上等を図るとともに、交通ルールの遵守と正しい交通マナーの実践により、自転車の交通事故の抑止に資することを目的とした教育プログラムです。



さいたま市の図書貸し出し数は、政令都市の中で1位。だからこそ…。

わが街の図書貸し出し数が日本一であることは、教育都市として誇らしい限りです。だからこそ、もっと便利に、もっとスムーズに、借りた図書を返却したいと思いませんか？

例えば横浜市では、田園都市線3駅の構内に返却ポストを設置し、通勤・通学、買い物途中でも図書の返却ができるよう工夫しているのです。好きな街が、もっと好きになれるよう、このことについても議会で取り上げていきます。



2月
議会

神坂たつあきの議会質問より

質問

待機児童対策について、2015年度からの「子ども・子育て新制度」では、認可保育所の利用要件が大幅に緩和されるが、さらなる保育時間の延長や夜間保育の機能拡充が必要なのは

答弁

昨年10月から11月にかけてゼロ歳から5歳のお子さんのいるご家庭3,000世帯へ無作為抽出によりニーズ調査を実施いたしました。現在調査結果を集計、分析しているところでございますが、このニーズ調査結果により、潜在的な保育ニーズも含めた保護者の意向を把握したうえで、保育供給体制を整備するための、仮称さいたま市子ども・子育て支援事業計画を策定し、その計画をもとに保育を必要とする子どもたちが必要なサービスを受けることができるよう各種施設及びサービスの整備を進めてまいりたいと考えております。



質問

近い将来、介護者の6割以上が60歳以上となり、老々在宅介護が急速に増加することが予測される中、介護負担の軽減策が急務の課題。日進月歩で進む排せつ支援ロボットなどへの支援策や利用者のニーズ調査、実証実験等が必要なのは

答弁

国においては、現在福祉用具介護ロボット実用化支援事業、これを進めておりまして、例えば実証の場の整備、モニター調査、普及啓発等、この事業の中にうたわれておりますので、今後この介護ロボットの制度化に向けた国の動きを私どもとしても十分見ていきたいと考えております。本市といたしましても、要介護者のこれからの在宅生活を支援するためには、この介護ロボットの活用は非常に有効であるというふうに認識しております。



“神坂”のひとこと

2月議会では子育て、高齢者、障がい者、自殺者対策などについて質問や提案を致しました。詳しくはHPで公開しています。ぜひご覧ください。